

平成 2 4 年 度
笠間市教育委員会外部評価報告書
(平成 2 3 年度事業)

平成 2 4 年 1 1 月
笠間市教育委員会

1. はじめに

平成19年6月「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正（平成20年4月1日施行）され、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うこととされました。また、点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしています。

笠間市教育委員会でも、事務事業の点検及び評価を行い、教育行政サービスの質の向上と市民への説明責任を果たすべく、平成23年度の教育委員会事業について点検評価を行い、学識経験者の意見を付して報告するものです。

笠間市の教育目標

知性を高め ひとりひとりのもちまえを伸ばす 自然や文化を大切にし 郷土を愛する心をつちかう 豊かな感性をはぐくみ 健やかな身体を養う
--

2 対象事業の選定

点検評価の対象事業は、笠間市総合計画に定める事務事業に基づき、教育委員会が行った主な事業から担当課が抽出した事業を対象としています。

3 行政内部評価

抽出した対象事業について、目的・対象・成果等を取りまとめ、必要性・有効性・効率性の観点から各主管課で、一次評価を行い、さらに教育次長が二次評価を行いました。

4 外部評価

外部の学識経験者で構成された「笠間市外部評価委員会」が、各担当課の事業ヒアリングを実施し、評価事業の客観性の検証と改善に対する意見及び提言等を行いました。

(1) 外部評価委員会 開催日 平成24年10月 4日（木）
平成24年10月12日（金）
開催場所 教育委員会会議室

(2) 外部評価委員会委員

氏 名	備 考
鈴木 暎一	茨城大学名誉教授
佐藤 武彦	元教育委員
高橋 一夫	元中学校長
川上 由美子	元PTA 役員
渡邊 洋子	常磐大学准教授

5. 評価事業の結果

かさま陶芸の里マラソン大会事業 (スポーツ振興課)	現行どおり継続	市民対象の体力向上, 健康増進等の教育上の主目的のほか, 笠間市の PR の行政目的の面でも非常に有効な事業と認められる。 ハーフマラソンの計画も, マラソン愛好者から支持されるものとするが, 人数も増え, 事故等の心配も出てくるので慎重に企画して欲しい。
県下中学生交歓笠間市駅伝大会事業 (スポーツ振興課)	現行どおり継続	市内中学生の健全育成, 健康増進を主目的としており, 当大会は非常に伝統と歴史があり県内でも他には三浜駅伝のみであることから, 継続実施すべき事業と認められる。
親子映画鑑賞会事業 (友部公民館)	改善し, 継続	親子が公共の場で映画鑑賞をする事によりマナーを学びふれあう事については良いと思う。 現在の社会情勢から見て, 参加者の減少, 開催コストの割高を考えると親子ふれあいの大切さをもっと重視した別の事業への転換や開催内容の再検討を加えて, より効果的な事業にすべきと認められる。
定期講座開設事業 (公民館)	現行どおり継続	社会教育法に基づく事業なので継続は当然, それだけに毎年の企画立案は大変ご苦労が多いと推察している。市民の生涯学習に寄与できるよう, 事業推進にあたっては市民ニーズを的確に把握して効果があがるよう努めて欲しい。
青少年相談員事業 (生涯学習課)	現行どおり継続	県下全市町村で取組まれている事業であることから継続実施すべきと認められるが, 相談員の一層の活動強化など, より効果的な活動となるよう努めていただきたい。 県内市町村の報酬は差があるようなので予算の厳しい折柄, 市としてはその合理的説明が出来るようにしてほしい。
全国こども陶芸展推進事業 (生涯学習課)	現行どおり継続	全国でも数少ない政策的な事業であり, 伝統技能の継承と笠間市のイメージアップ, 知名度の向上に大きく寄与しており継続実施すべき事業と認められる。
図書館サービス事業 (図書館)	現行どおり継続	予算が少なくなってく中で, いかに充実した事業を行うか難しいと思うが, これからも市民の文化意識の向上の為工夫をしていってほしい。
子ども読書活動事業 (図書館)	現行どおり継続	0歳児からのブックスタート事業など, 図書への親しみのための事業は重要であり, 現行どおり継続して実施すべきと認められる。 なお, 図書館蔵書の有効活用を図る意味においても, 各学校で保有する学校図書のデータベース化も視野に入れ学校と図書館の連携強化を図ること。
スクールライフサポーター配置事業 (学務課)	現行どおり継続	不登校の問題は本人だけではなく, 家庭にも問題があるケースがあるので, スクールライフサポーターだけではなく他団体の連携も含め総合的な立場で継続してゆくべきである。 県からの支出が無くなったときは, 市としてどうするか図ってゆかなければならない。
小・中学校学力向上支援事業 (学務課)	改善し, 継続	指導力や指導体制を強化することが結果として学力向上につながると思うので, 指導体制の強化を願いたい。 学力向上は単年度で成果が見られるものではないので, しっかりと基礎学力の定着をしてゆかなければならない。その為市として課題を投じて計画をしてゆく必要がある。

平成 24 年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	かさま陶芸の里マラソン大会事業				
担当部署	スポーツ振興課	事業費	3,800 千円	人件費	8,070 千円
事務事業概要					
<p>小学生・親子（2.5km）、中学生（3.5km）、一般（5、10km）の4部門で23種目に約4,000名が参加している。</p> <p>参加料として、小・中学生が1,000円（市内在住在学者500円）、親子・一般が3,000円（高校生1,500円）となっている。</p> <p>体育協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団などの関係団体と連携し大会を運営している。</p> <p>大会を通して「笠間市」を全国にPRするとともに参加者の健康増進、体力の強化を図る。</p>					
事務事業の目的と手段				指標の設定	
目的	①対象	市民等（市内小中学校）		対象指標	市内小学校数
	②事務事業の意図 （対象をどのようにしたいか） （どういう状態にしたいか）	市民の体力向上と健康増進を図る 大会を通して「笠間市」を全国にPRする		成果指標	市民参加者数 市外参加者数
手段	③目的を達成するために実際に行なった行政活動（サービス）	かさま陶芸の里マラソン大会の開催		活動指標	実行委員会開催回数 ボランティア係員数
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	市内の多くの小中学生が参加しており、体力向上、健康増進はもとより、スポーツを通して人間形成を図るなど教育的な側面も持っている。また、市民と参加者が交流することによって、地域の活性化を図ることができる。	
		有効性	適切	参加賞に笠間焼、特別賞に地元の特産品を使用するなど地場産業の振興にも寄与している。また、全国から参加者があり、観光のまち笠間市のイメージアップを図るよい機会になっている。	
		効率性	適切	現行の運営体制が多くのボランティアに支えられて成り立っているため、事業費を削減することは難しい。しかし、収入面では、今後、経済の活性化等により協賛金を増額できる可能性はある。	
	評価総合	今後の方向性	改善し、継続	ハーフマラソンの導入について検討するなど、さらなる発展・拡充を目指している。	
	資源配分	拡充			

外部評価	
内部評価の検証	<p>事務事業の目的及び達成状況を測る指数は適切である。</p> <p>事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。</p> <p>分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。</p>
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり継続 <input type="checkbox"/> 改善し、継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
問題点	駐車場の確保管理が課題である。
意見	<p>○事業の目的も明確であるし、今迄の経過からも現行どおり進めるのがよいと思う。</p> <p>説明の中で 20Km に延ばすことも検討中とのことだが、その場合人数も増えるし事故等の心配も出てくるので慎重に考えて欲しい。笠間の名を全国に高める為にもよい企画だと思うし、笠間焼きの参加賞もよいアイデア。特に小中学生と親のふれあいの場ともなっているようでほほえましい。</p> <p>○主として市民対象の体力向上、健康増進等の教育上の主目的のほか、笠間市の PR の行政目的の面でも非常に有効な事業と認められる。</p> <p>また、効率性もあげており、より良く改善しながら継続実施すべきと考える。なお、実施にあたって緊急時の事故対応など安全の確保には十分努めていただけるよう希望する。</p> <p>○小中学生が多く参加するなど、市民の体力向上・健康増進に大きく寄与する大会に育ってきている。市外からの参加も大きく増え笠間市の PR にも貢献大である。</p> <p>平成 25 年度からのハーフマラソンの計画も、マラソン愛好者から支持されるものとする。改善の方向性も的をえており期待したい。</p> <p>○全国的なマラソンブームの中、笠間市を知ってもらうには良い事業</p> <p>ツイッターなどにも親子で走った感想や賞の笠間焼きの写真もアップされている。</p> <p>昨年ボランティアで駐車場係りをしたが、ボランティア・参加者の駐車場からの出入りがもう少ししやすいと良いと感じた。</p>

平成 24 年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	県下中学校交歓笠間市駅伝大会事業				
担当部署	スポーツ振興課	事業費	1,248 千円	人件費	4,500 千円
事務事業概要					
東京オリンピックの開催を記念して始まった中学生対象の駅伝大会であり、平成24年度に第50回を数える歴史ある大会となっている。中学生の健全育成と競技力向上を図ることを目的に開催している。 男子 7区間 (19.89km) 女子 7区間 (15.39km)					
事務事業の目的と手段				指標の設定	
目的	①対象	中学生		⇨ 対象指標	近隣県内中学校数
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どういう状態にしたいか)	中学生の心身ともに健全な育成、競技力向上を図る		⇨ 成果指標	参加校数 参加チーム数
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	県下中学校交歓笠間市駅伝大会の開催		⇨ 活動指標	開催回数
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	青少年の心身の健全育成、競技力向上を図る上で重要な事業である。	
		有効性	見直しの余地がある	中学1,2年生を対象に実施する大会で、平成24年度で第50回を数える歴史と伝統のある大会である。県内で同規模の大会は三浜駅伝のみ。	
		効率性	適切	体育協会、スポーツ推進委員協議会、スポーツ少年団など各関係団体の協力やボランティアにより最小限の経費で大会を運営している。	
	総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	歴史と伝統のある大会であり、青少年の健全育成、競技力向上を図る重要な事業であるので、今後も継続して実施する。	
資源配分		現状維持			

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は適切である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。 分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり継続 <input type="checkbox"/> 改善し、継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
問題点	コスト削減が課題である。
意見	<p>○50年の歴史があると聞いて驚いた、是非今後とも継続して実施して欲しい。笠間のメインストリートを走ればなお盛り上がると思われる。テレビや新聞などに取り上げてもらう工夫をしてみたらどうか。選手たちの励みともなるだろう。県内にこれだけの伝統のある中学生の大会は無いようだから市としても大切に育てて欲しい。他の委員からも意見があったが財政厳しき折から参加費の若干の値上げの検討も必要かと思われる。</p> <p>○市内中学生の健全育成、健康増進を主目的としており、県内でも他には三浜駅伝のみであることから、当大会は非常に伝統と歴史があるので、継続実施すべき事業と認められる。 なお、経済面から参加費について他の大会を参考にするなど工夫をすべきと考える。</p> <p>○県内において新人(1・2年生)で実施する唯一の大会であり、50年の歴史とともに意義ある大会である。稲荷神社前など市街地を走る大会になれば選手も大きな励みとなり、市民と一体になりより盛り上がる大会となる。実現に期待したい。</p> <p>○県内で中学生が参加できる大会としては2つとのこと。子どもたちが参加して自信をつけチーム力を養うには良い大会である。 参加費の値上げの案もありましたが、参加する中学生は学校の代表として出ているので、単に値上げをするより別の方法で収入を考えた方が良いと思う。</p>

平成 24 年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	親子映画鑑賞会事業				
担当部署	友部公民館	事業費	30 千円	人件費	975 千円
事務事業概要					
笠間市内の親子を対象に年 1 回の映画会を企画し夏休みに、鑑賞会を開催する。 また、かさまっ子未来プランの基本目標にも組み込まれている。					
事務事業の目的と手段				指標の設定	
目的	①対象	市内の親子対象	⇨	対象指標	開催回数 参加人数
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どういう状態にしたいか)	家族のふれあいや、公共の場でのマナーを学ばせ、情操教育を図る。		⇨	成果指標
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動 (サービス)	上映内容の検討、広報誌等を通して開催周知、業者との調整、会場の安全管理をする。	⇨	活動指標	開催回数 参加人数
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	親子のふれあいの大切さ、人間相互間のマナーの大切さ、子供達の情操教育の向上を映画会開催により図る。	
		有効性	適切	無料で提供され、親子のふれあい、教養の向上が図れる。	
	総合評価	効率性	適切	通年、多くの映画鑑賞に参加している。	
		今後の方向性	現行どおり 継続	親子のふれあいの大切さ、人間相互間のマナーの大切さ、子供達の情操教育の向上を映画会開催により図るため、現行どおり継続する。	
	資源配分	現 状 維 持			

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は適切である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は適切とは言えず、それに伴い論理的な方向性が選択されていない。
今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現行どおり継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し、継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
問題点	事業参加者が少なく、1人あたりのコストが高い
意見	<p>○長い間継続している事業のようだが、これだけテレビが普及している現代映画を見せるにしても、もう少し発想の転換が必要ではないか。(アニメや映画だけではなく)親子のふれあいの場を提供することは大切なのもう少し事業自体内容を検討することを希望する。</p> <p>○昭和 52 年度から友部公民館で開催されてきた経緯はあるものの現在の社会情勢から見て、参加者の減少、開催コストの割高、を考えると親子ふれあいの大切さをもっと重視した事業への転換や開催内容の再検討を加えてより効果的な事業にすべきと認められる。</p> <p>○映画鑑賞はマスメディアの発達した現代時代にそぐわない。(昭和 52 年事業開始当時とは大きく違っている)ただし、親子ふれあいの事業は現在も必要である。内容を検討し改善し継続することが望ましい。</p> <p>○親子が公共の場で映画鑑賞をする事によりマナーを学びふれあう事については良いと思いますが時代にあった事業の見直しが必要な時期ではないでしょうか。人が集まっていないことがそれを表している。</p>

平成 24 年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	定期講座開設事業					
担当部署	公民館	事業費	2,151 千円	人件費	14,625 千円	
事務事業概要						
市民の教養の向上, 健康増進等が図れるような各種講座を開設することにより, 生活文化の向上に寄与することを目的とする。						
事務事業の目的と手段				指標の設定		
目的	①対象	笠間市在住・市内在勤者		⇨ 対象指標	講座数 開催数(延べ) 参加延べ人数	
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どういう状態にしたいか)	市民に様々な学習機会の場を提供し, 教養の向上, 健康増進を図る。		⇨ 成果指標	講座数 開催数(延べ) 参加延べ人数	
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	趣味, 教養, 運動等多岐にわたる講座を企画し, 講師と調整をしながら実施する。		⇨ 活動指標	講座数 開催数(延べ) 参加延べ人数	
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由		
		必要性	適切	地域の誰もがいつでも学ぶことのできるよう, 市民対象, 市在勤者対象の各種講座開設による学習機会の提供及び生涯学習の推進。		
		有効性	適切	学習を通しての学習意欲の向上により, 文化を向上させ, 地域にも学習効果を還元する。 市民に対して, 生涯学習の場を提供することにより, 市民の教養の向上に寄与する。		
		効率性	適切	小学生から高齢者まで, 各種講座に参加希望がある。 市内全域から各種講座参加希望がある。		
	総合評価	今後の方向性	現行どおり	社会教育法第 22 条の規定に基づき, 公民館事業として実施する。多種多様な講座を開設することにより, 市民に生涯学習の場を提供し, 地域文化の向上に寄与するため, 現行どおり継続する。		
		資源配分	現状維持			

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は適切である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。 分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり継続 <input type="checkbox"/> 改善し, 継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
問題点	幅広い分野で講座を開設しているが, 人気のあるなしで希望者が大きく異なる
意見	○社会教育法に基づく事業なので継続は当然だがそれだけに毎年の企画立案は大変ご苦労が多いと推察している。市民の生涯学習に寄与できるよう, 今後とも知恵を絞っていただきたい。予算が削減される中, その内実をどうするのか, 他の公民館事業の知恵などにも耳を傾けてみてはどうか。 ○社会教育法に基づいて市民の生涯学習の場として極めて重要な事業と認められることから, 事業推進にあたっては市民ニーズを的確に把握して効果があがるよう努めていただきたい。 ○今後も各館創意工夫した各種講座を開催することに努め, 市民の教養の向上・健康の増進に寄与して欲しい。 ○市民の教養の向上, 健康増進あるいはコミュニケーションの場として必要な事業であるとは思いますが, 予算の面を考えると講座によっては受講料を値上げしても良いのではないかと。又, 受講生向けのアンケートがある様だが一般市民向けの調査があっても良いかと思う。

平成 24 年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	青少年相談員事業				
担当部署	生涯学習課	事業費	1,049 千円	人件費	750 千円
事務事業概要					
<p>青少年の健全育成を図るため、笠間市青少年センター相談員規則に基づき、笠間市青少年相談員として 5 2 名を委嘱している。</p> <p>相談員の任期は 2 年とし、主な活動としては、「青少年の健全育成に協力する店」の訪問活動・学校訪問・まつり及び卒業式巡視・自動販売機（有害図書）の立入調査等となる。</p>					
事務事業の目的と手段				指標の設定	
目的	①対象	青少年相談員		⇨ 対象指標	青少年相談員数
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どういう状態にしたいか)	青少年育成活動の充実及び地域との連携強化		⇨ 成果指標	活動に参加した延べ人数
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動（サービス）	「青少年の健全育成に協力する店」への訪問活動 地域や祭礼巡視活動 学校訪問や卒業式巡視 研修会等の参加		⇨ 活動指標	活動日数
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	地域ぐるみで青少年を育成することは非常に重要なことである。本事業は、地域から選ばれた方々が相談員として委嘱され、自分の地域を中心に青少年育成活動を行うことにより、より一層の効果が期待できる事業であり、適切だと言える。	
		有効性	見直しの余地がある	相談員の責任意識の向上が、成果向上に結びつくため、相談員の事業参加率を上げる工夫が必要である。	
	総合評価	効率性	適切	現在のところ削減の余地なし。	
		今後の方向性	現行どおり継続	青少年の健全育成を図るため、地元で構成している相談員が店舗の訪問活動・学校訪問・まつり及び卒業式巡視・自動販売機（有害図書）の立入調査等を実施していくことは重要であり、この事業を継続していく必要がある。	
		資源配分	現状維持		

外部評価	
内部評価の検証	<p>事務事業の目的及び達成状況を測る指数は適切である。</p> <p>事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。</p> <p>分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。</p>
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり継続 <input type="checkbox"/> 改善し、継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
問題点	相談員報酬については、近隣市町村の状況を見て高額ではないか
意見	<p>○現下の社会状況からみて、事業の必要性はよく理解できる。現行通りの継続を望みたい。</p> <p>報酬に地域によってかなりの差があるようなので予算の厳しい折柄、市としてはその合理的説明が出来るよう配慮してほしい。（現在は周辺地域より高い方に設定されているので）</p> <p>○青少年の健全育成のための事業であり重要な課題である。県下全市町村で取組まれている事業であることから継続実施すべきと認められるが、相談員の一層の活動強化など、より効果的な活動となるよう努めていただきたい。</p> <p>○青少年の健全育成のため、より効果的な活動となるよう今後も事業活性化に努めていただきたい。</p> <p>○各地区の地域親という位置づけの特性をもつ青少年相談員なので事業内容・組織は良いと思う。</p> <p>ただし、相談員自身が地域のための活動としてボランティア的に行っている様な特性があるため、報酬が一律 4,500 円でなくても良いのではと思う。</p>

平成 24 年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	全国こども陶芸展推進事業				
担当部署	生涯学習課	事業費	5,870 千円	人件費	4,725 千円
事務事業概要					
陶芸を通して子ども達の豊かな感性を養い、自由な想像力を発揮する場の提供をすると同時に「陶芸の里かさま」を全国に発信する。また、市内の児童生徒を対象に出展する作品づくりのための陶芸教室を開催している。					
事務事業の目的と手段				指標の設定	
目的	①対象	全国の小中学生, 市内小中学生		⇨	対象指標 全国の小中学生数 市内小中学生
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どういう状態にしたいか)	茨城新聞社と連携を図り、こども陶芸展の開催		⇨	成果指標 作品応募数 展示会来場者数
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動 (サービス)	作品の公募及び審査, 市内小中学生を対象とした陶芸教室の開催		⇨	活動指標 陶芸教室の開催校数
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	市の事業の中でも数少ない全国を対象とした事業である。「陶芸の里かさま」を全国に発信することができ行政の関与は適切である。	
		有効性	適切	応募作品, 来場者の増加につながる方策の検討を進める。	
	総合評価	効率性	適切	茨城新聞社や地元窯元の協力により経費が抑えられている。	
		今後の方向性	現行どおり 継続	全国規模の陶芸展で笠間を十分に PR できる事業であり茨城新聞社との共催により経費も抑えられることから現行どおり継続。	
	資源配分	現 状 維 持			

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は適切である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。 分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり継続 <input type="checkbox"/> 改善し, 継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
問題点	強制は出来ないが市内全小中学校が参加しても良いのではないかと。
意見	○いかにも本市らしいすばらしい企画だと思う。是非継続してほしい事業である。「陶芸の笠間市」を全国に PR するよい機会になるだろうし, 小中学生の瑞々しい感性を伸ばすのにも大いに役立つに違いない。今後も PR に努力し, この企画が県民や全国にさらに周知されるよう希望する。 ○全国でも数少ない政策的な事業であり, 伝統技能の継承と笠間市のイメージアップ, 知名度の向上に大きく寄与していると認められ継続実施すべき事業と認められる。 笠間市内の児童・生徒の作品の上位入賞を期待している。 ○全国で唯一の子どもを対象とした陶芸展が焼物の里笠間で開催されているのは大変意義がある。 今年 12 回目を迎え, 作品数も増加しており全国からという広範囲の出品になっているのも大きな成果である。今後のさらなる事業の充実を期待したい。 ○こどもを対象にした陶芸展は, 他にはないので是非継続してもらいたい。 また, 市内の全小中学校が参加することが望ましい。

平成 24 年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	図書館サービス事業				
担当部署	生涯学習課 図書館	事業費	笠間 101,331 千円 友部 16,940 千円 岩間 7,440 千円	人件費	笠間 39,119 千円 友部 37,331 千円 岩間 22,003 千円
事務事業概要					
図書館法に基づいた図書館の基本的事業である。 市民の生活に必要な様々な資料・各種講座の提供やギャラリーを利用した情報の発信等広い分野において市民が求める情報を提供し、市民の教養・調査研究・レクリエーション等に資する。					
事務事業の目的と手段				指標の設定	
目的	①対象	利用者、市民		対象指標	市民
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたか) (どういった状態にしたか)	・市民生活の質を高め、豊かで安心できるものとなるよう様々な学習機会・情報が得られる。 ・市民・利用者からの資料案内・調査(レファレンス)に的確に対応する。		成果指標	入館者数 資料貸出冊・点数 市民一人当たりの貸出点数
	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	・利用者の要望に応じ、様々な観点で資料・情報・学習機会を提供する。 ・様々なテーマに基づき、レファレンス事例の保存活用を図る。 ・図書館資料を充実し、確保する。		活動指標	開館日数 開館時間 資料購入点数
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	図書館は、「教育機関」「社会教育機関」という法的位置づけがされており、学校教育、家庭教育と相まって、生涯学習の一翼を担っている。	
		有効性	適切	図書館の利用は、もっぱら利用者の自主性・自発性に基づいている。また、図書館資料は学習資源でもあり、その利用は自主性・自発性を旨とする生涯学習を端的な形で表しており、有効性は高く、利用も伸びている。	
		効率性	適切	資料の購入等については、3館で協議・バランスのよい購入計画を立てている。職員においても全職員の2/3を非常勤職員で対応しコスト削減を図りながら、各種サービス、事業については、各図書館の状況に応じて提供している。	
	評価	総合	今後の方向性	現行どおり継続	笠間市立図書館は全国でも有数のサービス事業実績を上げており、今後も引き続き市民の要望に答え、情報及び学習の拠点として高い水準のサービス業務を提供していくことは必要不可欠な事業である。
		資源配分	現状維持		

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は適切である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。 分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり継続 <input type="checkbox"/> 改善し、継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
問題点	サービスの向上・事業など新たな工夫が必要
意見	○全国トップの利用率をキープしていることは、すばらしいと思う。 館員の方の説明を聞いて日々努力している状況を知り、なるほどと納得しました。 年間の経費の減額の続く中現状のサービス提供の維持もいろいろな工夫が必要になるだろうか；他の優秀な図書館のノウハウなども取り入れてがんばって欲しい。 ○市民の生涯学習の根幹をなす事業であり、利用状況も全国トップレベルの利用率となっているなど、まさに市民生活に密着した事業である。 厳しい予算の中でも、資料購入費の確保を努め継続した事業展開を願いたい。なお、平成 23 年度に実施した 3 館システムの統一が極めて有効な対策であった。さらに、岩間図書館にもギャラリーの設置が望ましいと思われる。 ○全国有数のサービス実績を年々上げているのは大変すばらしい。現状に甘んずることなく課題意識も明確に持っており更なる向上が期待できる。 ○予算が少なくなっていく中で、いかに充実した事業を行うか難しいとは思いますが、これからも市民の文化意識の向上の為工夫をしていってほしい。資料の購入にあたっては、ブームだけを追わずに長い眼で見る事が大切 ○笠間市の文化レベルの向上、コミュニティのいこいの場としても、全国に誇れる施設でありサービスである。市全体の予算・財政が厳しい中単に今年度以上の予算要求というだけではなく、ソフト面で削減された予算を補う新しい工夫を常に求められている現状にあると感じた。有効性を評価し「向上の余地がない」と限定しているが、限界点を定めるのではなく新たな工夫、有効な改善を進めていっていただきたい。

平成24年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	子ども読書活動推進事業				
担当部署	生涯学習課 図書館	事業費	笠間 7,127千円 友部 40千円 岩間 39千円	人件費	笠間 13,502千円 友部 12,838千円 岩間 7,957千円
事務事業概要					
「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年法律第154号）の成立により、本市でも平成20年3月「笠間市子ども読書活動推進計画」が策定され、「市立図書館の整備」や「市立図書館と学校図書館の連携・協力」等が方策としてあげられている。					
事務事業の目的と手段				指標の設定	
目的	①対象	乳幼児から高校生まで		対象指標	乳幼児から高校生まで ブックスタート対象者 乳幼児から児童まで
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どういう状態にしたいか)	・図書館資料・読書を通して親子のふれあい・語り合い・絆を確かなものにする。 ・事業への参加を通して子育て支援が得られ、読書活動が図書館利用が盛んになる。		成果指標	高校生まで貸出冊数 ブックスタート参加者 おはなし会・読書フェスティバル参加者
	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	・地域や学校・施設等との連携を図り読書活動・子育ての支援と資料の提供 ・ブックスタートやおはなし会、子ども読書フェスティバルなどの事業を開催し、読書に親しむ機会を提供 ・年齢に応じた資料の提供や事業開催		活動指標	児童書貸出冊数 ブックスタート開催日数 おはなし会・読書フェスティバル開催日数
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	本市では「笠間市子ども読書活動推進計画」を策定し、市内小中学校、各関係機関やボランティア団体との連携を図り実施している。本に触れる機会の増加は、本を読む力の増加につながる。本を読む力は学ぶ力の基礎であり、必要性は高い。	
		有効性	適切	図書館で所蔵している児童書を、読み聞かせや各種イベント、学校との連携を通じて子どもたちにその利用(貸出)を促すという方法は、具体的に直接的でわかりやすい方法である。	
		効率性	適切	図書館が提供する読み聞かせや読書推進イベントなどは、子どもが読書で親しんで行くきっかけ作りとして非常に効率的な方法である。	
	総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	「笠間市子ども読書活動推進計画」に基づく子どもの読書推進は、読書により子ども達が、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものとするために重要な役割を担う事業であり現行どおり継続するのが適切である。	
資源配分	現状維持				

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は適切である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。 分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり継続 <input type="checkbox"/> 改善し、継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
問題点	学校図書館の活性化については、学校側の運営体制に厳しい現状がある。
意見	○事業の重要性は言うまでもないこと。活字離れが加速している中、幼児期から読書の習慣をつけさせることはとても重要。本市では子育て世代の親の図書館利用率が高いそうなので、この世代への働きかけをさらに進めれば、この事業も一段と活性化するだろうと思う。学校図書館との連携についても、工夫をすることも必要かと思う。 ○0歳児からのブックスタート事業など、図書への親しみのための事業は重要であり、現行どおり継続して実施すべきと認められる。なお、図書館蔵書の有効活用を図る意味においても、各学校で保有する学校図書のデータベース化(蔵書の美樹巴屋)については早急に取組むべき課題であると思われる。 ○子どもの活字離れが社会問題となっている現在、当事業の意義は大きい。学校との協力体制をより強化するなど、当事業のさらなる推進充実に期待する。 ○ブックスタートなどで、小さい頃から本に親しむ活動はすばらしい。また、それによって親が「気づき」読書の大切さ、面白さを感じて図書館の利用が増え心豊かになっていくことは良いことです。 ぜひ、学校図書館のデータベース化を進めて、予算を共有し、有効に使っていただきたい。 ○学校図書館の人的・質的改善が必要であると感じた。図書館ボランティアと市の図書館職員の一層の連携交流を企画していただきたい。会の中で意見があったが、予算減のため市図書館と学校図書館の蔵書の選別、有効性を追及していただきたい。

平成 24 年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	スクールライフサポーター配置事業				
担当部署	学務課	事業費	691 千円	人件費	750 千円
事務事業概要					
児童生徒の不登校（30 日以上）状態の解消及び不登校問題の未然防止を図るためスクールライフサポーターを配置する。 県委託事業（岩間地区小学校）					
事務事業の目的と手段				指標の設定	
目的	①対象	岩間地区小学校 2 校		対象指標	支援者数 児童総数
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どういう状態にしたいか)	不登校・不適応傾向にある児童への家庭訪問、学校生活への支援を行い、不登校の解消を図るとともに未然防止に努める。		成果指標	支援者数 不登校率
	手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動（サービス）	サポーター 2 名配置	活動指標	サポーター配置員数
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	不登校の未然防止を図るためスクールライフサポーターの配置は必要である。	
		有効性	適切	心の教室相談員との連携を図り、未然防止に努めている。	
		効率性	適切	現在、2名のスクールライフサポーターで相談業務を行っているため事業量削減の余地はない。	
	総合評価	今後の方向性	現行どおり	不登校や問題行動の未然防止を図るためスクールライフサポーターの配置は必要である。	
	資源配分	現状維持			

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は適切である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。 分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり継続 <input type="checkbox"/> 改善し、継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
問題点	県の補助事業であり岩間地区の小学校のみが対象となっている。
意見	<p>○事業の重要性から考えて、継続は当然と考える。</p> <p>心の教室相談員その他関係者と緊密に連携をとって実績をあげてほしい。説明を受けると過去の実績は大いに上がっているとのことなので、県の 100%補助が今後も続くよう期待したい。しかし県の予算だけをあてにするのではなく、市独自の予算化も近い将来必要になるかもしれない、そのための心構えもしておいたほうが良い。</p> <p>○不登校や問題行動の未然防止を図るための事業であり、平成 18 年度以降継続実施により効果も上がっていることから、現行どおり継続して実施すべきと認められる。なお、平成 23 年度は県の補助率 100%の事業として実施されたが、将来補助が減少ないし無くなった場合においても市単独事業として継続すべきと思われる。</p> <p>○児童生徒の不登校の増加は、社会問題となっている。小学校の時に適切な対応をし、不登校の未然防止に努めることは重要である。今後も、不登校、不適応傾向のある児童への早期対応の充実を図ってゆくべきである。</p> <p>○不登校の問題は本人だけではなく、家庭にも問題があるケースがあるので、スクールライフサポーターだけではなく他団体の連携も含め総合的な立場で継続してゆくべきである、県からの支出が無くなったときは、市としてどうするか図ってゆかなければならない。</p> <p>○難しい社会状況の中、学校の教育活動の支援は年々必要性が増している。細やかな目配り、心の居場所づくりのためにも、今後とも本事業は進めていっていただきたい。また、スクールボランティアの募集などを行ってはいないとのことだったが、今後市内全域で進めてゆくと良いのではないかと考える。</p>

平成 24 年度 笠間市教育委員会外部評価対象事業個別評価書

事務事業名	小・中学校学力向上支援事業				
担当部署	学務課	事業費	小学校 2,003 千円 中学校 1,366 千円	人件費	小学校 1,650 千円 中学校 1,650 千円
事務事業概要					
H18 年度から実施してきた、小学校・特色ある学校づくり事業を H23 年度より学力向上支援事業として、学力調査等に見られる実態や各校の学力に係る課題への対応として、各校が自主性を発揮し、学力向上に向けた活動を推進する。					
事務事業の目的と手段				指標の設定	
目的	①対象	市内小学生 市内中学生		対象指標	児童数 生徒数
	②事務事業の意図 (対象をどのようにしたいか) (どのような状態にしたいか)	学力調査に見られる児童生徒の実態や各校の学力に係る課題への対応として、各校が自主性を発揮し、学力向上に向けた教育活動を推進する		成果指標	小学校数 学力診断テスト 6 年の平均 点県比較 中学校数 学力診断テスト 3 年の平均 点県比較
	手段	③目的を達成するために 実際に行った行政活動 (サービ ス)	放課後活用補習事業 外部支援員活用による個別学習支援 夏休み学習塾の実施		活動指標
内部評価	一次評価	区分	評価	評価理由	
		必要性	適切	学力向上に向けた特別な教育活動の必要性は高く、同時に教員自らの意識の高揚と研究が図られている。	
		有効性	見直しの余地がある	各校の自主性を発揮できる事業計画作成並びに実践が求められ、各校の研鑽が必要である。	
		効率性	適切	学力向上を目的として、必要最低限の経費の中で明確に執行している。	
	評価 総合	今後の 方向性	改善し継続	学力向上支援事業として、各校の自主性により学力向上に向けた教育活動を推進することは必要である。	
	資源配分	現状維持			

外部評価	
内部評価の検証	事務事業の目的及び達成状況を測る指数は適切である。 事務事業の現状把握及び課題の認識は概ね適切である。 分析を踏まえた論理的な方向性が概ね適切に選択されている。
今後の方向性	<input type="checkbox"/> 現行どおり継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し、継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
問題点	直ちに効果が出るものではなく長期的に考える必要がある。
意見	<p>○学力向上と銘打つのであれば全体的に見直しが必要か。市の予算で実施しているのであるから、各校独自性を出すのは良いとしても、ともすると市全体から見るとバラバラになりやすいだろう。見直しの内容としては「今後の重点目標はこれ」というように焦点化して市全体として取り組むべきなのではないか、(学力検査の結果などを参考として) そのためには予算規模をかなり拡大しなければならない。</p> <p>○学力向上は、極論的には指導力向上いかに関わってくると思われる。逆に言えば、指導力や指導体制を強化することが結果として学力向上につながると思うので、今後更なる予算の確保に努めていただき、指導体制の強化を願いたい。</p> <p>○学力が 2 極化する傾向が社会問題化している中、基礎的内容の理解が不十分な児童生徒への対応は各学校の大きな課題である。本支援事業が活発に展開され、児童生徒の学力の定着が図られるよう今後に期待したい。</p> <p>○学力向上は単年度で成果が見られるものではないので、しっかりと基礎学力の定着をしてゆかなければならない。その為に市として課題を投げて計画をしてゆく必要がある。不登校の問題にしても関わってくるので各部所と協力してゆく、予算をもう少し多くして講師をお願いする案があるとの事なのでそれが通ると良いと思う。</p> <p>○将来の笠間市は今の教育が築いてゆくものであると考える。 今年度のような予算の使い方(学校側からの希望)に甘んじず市として効果的なピンポイントの予算執行を行ってゆく方向で進めていただきたい。各校 1 名加配もしくは教育専門監の設置など大いに進めていただきたい。大学との連携でスクールボランティアを上手に活用している学校も見受けられる。スクールボランティアを導入し少ない予算でも効果の上がる事業も行っていたいただきたい。</p>